

交羅衣 三篇

78.3

新刊  
3869  
30



交羅衣 三篇

利 9  
3869  
30

特  
利 9  
3869  
30

大正七  
室井平藏

歌羅衣三篇序

夫風流の中より英雄志を

汗あらし元夢の古角 瓶宇多天皇

在原 業平 情状

取らるる手の中を去るる

世迥雅人をも集りて競ふ

序



増幸の松魚が此へ着く安否 本二 國春

打連る神も豊かに鼓の間 金吹了 泰定

鹿胸若隠以活泉宿の妻の腋 横山二 寛坊

裏に居る格も買人も造り花 神田 松花

新葉を小聲も持てつぐやる 土バシ 来負

常司定々 雲の橋板 本銀三 吟多楼

とらぬも引志をる湯上り 子喰了 路蝶

襟も手厚く仕舞ふまあせ打 本銀四 二刀

流子子根のけの目立ッ継糸 神田 亀甲

冠冠 三 三

三下けり思ひと括口を納る子 戌州 五来

三ッ襟も掛り髪置の仕立栄へ 青山 花魁

三新家母も割の格町子 神田 國春

三筋鼻緒も梅湯小たぬ下結 神田 一玉

三味線の駒もかけ出は弾き 飯田了 孫樂

三味線の癖傘の柄をたぐく指 神田 三はし

三社の滝と晒庭て争ういせ馬 堀江二 谷泉

三味線を打て十夜の笛を吹せ

浅州

如新

日板

板付テ踊る直一尺小工しきし

浅州

旭二

板付テの千足下結もる上り

池多

盃洗

板の留よむく奉念の浮世風長

ハニテ

一篤

折込歌 掛増

西掛のまき石にちんも増し川

ハニテ

花橋

响きて巻く掛鉄子母の苦も増し

本二

馬蝶

大師病し小増本へ引ッ掛り

國表

掛鉄も巻く鉄子とづんを巻く増

神田

珠交

五字題 ハ心込め

ふみん風うさう師師つ附く後

幸ヤカシ

亀楽

上り籠を和尚がほくざり

浅州

田張

秋葉山の護戸禁とぬり

京バシ

亀童

籠り松子梅まが白ひ

神田

賀重

日安に髪の上り淋し

本所

二蝶

第階子を襦袢で隠し

南三三

生蝶

裏の方うへ皿かきんが急キ

京ハシ

龜山

同上吉

玉袖キ掛ひのりまま

神田

吉常

星下りの玉うまま國へ為

浅州

東我

ふ銅の付く旅を拂ひ

神田

一岡入

石をかりぬ車う出り

夕

ハ鬼

毎朝柱へあまをと突き

夕

夕キ

著習も法師へ下包登せ

夕

玉任

今合算の小眼を

夕

玉任

お白冠ウヒカ

一日延る月代を風邪と字の子

本二

賢止

ふさとね子置る茶子の盒も茶

本二

本坊

犬も八足曲亭乃門ちりり

本二

寛坊

袋ツねと下火く小袋穿る子

本二

青坊

厭し袖換茶の白子片行襟

本二

花坊

糸巻く手緒をたり小袋を妻

本二

梅枝

か呼んく拾へ妻の緒子の戸

本二

馬蝶

息キくける鬢付定る髪短白

本二

柏枝

一陽子 字々 字々 字々 梅

夕キ

梅を抜く 雲小血の病か ぬ指

春窓

石の虎 廣尾 嘯く 風を

材居

笑 袴も 一組 宛子 仮りの 帯

睡蝶

割はんて 火鉢に 赤き 麻の 息

國松

曰 川ハ

退らぬ 娘を 流す 存す 友

其月

高 照子 黒爪 子 なる 帯 袴

一泉

強ひく と 子 の 猿

旭二

積つて 中 小 志 白 犬

一貨

造る 毛 原 鹿 の 雪

五束

妻 夜 苗 纏ふ 代も 丑 之 川

盃洗

釣る 巨 蛇 の 花 冠 冠 の 室

登石

つむく てん 張つて 赤い 乳

亀石

冠冠 上氣

子を 着て 娘も 手先を 置 巨 纏

花魁

糸 子 蝶よ 花 冠 冠 冠 冠 冠 冠

如鶴

気 休めの 糸 冠 冠 冠 冠 冠 冠

懐我

神田

浅井

彩林

青山



雪の降ひ女房蹴出し子小辨度  
も汲んてある茶もさめぬ母孝  
も丸くさる茶溜の深さ友

神田

瓊翁  
松花  
さよし

日張

張り上げそ子も身小深く空程有  
張肩を折く妻の仕り泣  
張る目世々と破た弓妻の尚市  
張る手掛て子うらる粘も二重紙  
張り上る風小骨折る名倉の子

浅州

神田

一鳥  
龜遊  
福丸  
龜甲  
吟多樓

張り残り子一小留猫の穴  
活端の風子紐回る悪んぼよ

賀重  
来賀

折込題 美形

雪へ面形押小み女出る清庭  
美女吐く句も弱形の郭公  
京人形も巻子も美しき  
深も美し手拭の形も有る

五字題 がりのり

まっくらうらるる飛脚ふりき

彌樂  
谷泉  
東我  
龜山  
魚樂

海一舟が流るる仕舞 本石一  
楠花で掛を喰って留り  
形を思ふさかひいそあけ  
二園松  
二蝶

日儲けもの

のさん歳々と寄松子遊む  
二刀  
遠く毛程く神棚へ上る  
田張  
茵柄抄へ巻奉りかき  
園入

淋仲の身も 玉住

馬寄り酒買

折句題 ホタツ

干海苔や反りもの形りの言仕入 神田  
一松月

骨折く巻而るもの言と世き妻 一泉

ぼちやうあまし妻掛をほむと楠 モラキ坂 桂井

梅又の支なまを掛一暮と豊方 盃洗

室の梅棚へ飾るる言を陽 田張

梅牡丹たよりふねの車引 一玉

虫封と抱て妻の言外く 一弥

坊よりく来ると足嫁の菓子言 一旭

旭二

ホイと唄 虎戸をむきやう 砵り 蕎麦

春窓

日ヒケ

火鉢 磨きも手思ひ 除夜

二刀

猪毛暖り 手ぬぐり 子猫

一泉

一五 以てをり 手傘 朱の紋

其月

怖り すす 嫁 獣 毛の 足 世

五来

鬢 根 毛 毛と 付 小 糸

花魁

冠冠 旅

旅 子 靴 子 子 子 子 打 靴

龜山

旅 子 豆 旅 子 子 一 十 回

福丸

旅 子 又 人 毛 入 子 子 子 子 子 子

賢止

日門

門 十 多 一 師 師 の 子 帳 も 曆 を

一泉

門 十 多 地 毛 糸 張 り 毛 糸 坊 主 兜

东我

門 十 多 小 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

三よし

門 十 多 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

青と

門 十 多 世 子 水 糸 糸 糸 糸 糸 糸

烏月

門 十 多 時 毛 流 糸 糸 糸 糸 糸 糸

柳花

久保丁

極留丁

門松賣も言砂て福入造酒  
門の戸張り小口も干ぬとづ子

龜石

一鳥

新込題 千打

お掛掬粘を浪子耐く千鳥

龜甲

打豆も千の矢先きの追雛

材石

雪打や海の世界も銀千呂利

寛坊

千代田編着て太鼓打るおの子

瓊翁

五字題 百合せ

番古の妻の乳房よ新け

龜乐

二階のあま子も垂しを垂し

松花

小葉の蕊を折つて垂し

夕井

世は是も花

老木の松も清夜子あけ

圓入

鉄炮の百鎗を奢り

柏枝

包をこむく床を並べ

賀重

年忘も子てよちんて出さけ

圓松

門小羽根春原

玉住

足子出る程とて

打白題 八十一

柱小拵 掃く 猫の身ハ 遊藝

東 我

笑 出 以 離 の 髪 押 して 了 娘

谷 泉

箱 あつ や し せ け ぬ 流 々 室 戸 川

神田 東 狐

羽 根 手 身 も 亦 へ 一 所 他 の 子 も 之 也

吉 事

初 離 也 若 子 の 是 け り も 之 由 重

和 花

母 親 も 亦 け ぬ 是 け 出 見 是 色 の 日

獲 翁

針 も 拵 刺 せ ぬ 世 常 に 身 也 一 し

呂川 一 窓

鈴 也 並 ぶ へ 離 の 所 厨 子 拵

十 籠

扱 之 合 小 拵 け ぬ 爪 毛 右 左 手

賀 重

物 子 拵 七 湯 象 も 連 の 亦 亦 け け

一 窓

お け け け け け け け け け け け け

柏 枝

母 子 を 因 合 之 連 々 拵 花

三ヶ子枝 旭

花 落 の 若 子 も 山 谷 の 之 け け け

品川 風 呂

母 も 花 ち ぎ 身 一 口 ち ぎ ぎ

本編二 春 窓

幌 張 も 夏 之 拵 之 拵 南 風

本編二 本 丸

早 ひ 亦 け け 妻 切 け け 支 支

小舟三 如 水

日 クスラ

口を子の濡きさきまき  
くさくささきさきさきさき  
滑りかきりすすほむ両袖

冠う題 持

持髪くくく子家根板の岩舟  
持髪ひまきまき子の荷い少し  
持髪も髪愛のよま子羽まき芝居  
持やまき漬くさ縄をよれりさ  
持てれく糸目つむも曲らぬ子  
持上げを肥りと哭き男の子  
持てまを引く子曲けり顔  
持あが出ぬき髪を待たぬ花

日人

人見知りせぬ子の母の子助り  
人形も世に本面もちり付く  
人との見せ玉山のちもゆんて  
人形を抱きおつふんの子てあゆむ

折之題 別抄

龜山  
二刀  
梅枝

神田

向子岡

岡入  
徳利  
松老  
睡蝶  
五葉  
吟多樓  
八鬼  
盃洗

神田

珠交  
松舟  
賢止  
五葉

顔よ遊ひのせむい舞の別ふ花  
間を別に手遊ひ傍る芥子むあな  
別當ともも 梨のこもる 遊山侍  
遊んで暮らして別荘の苦ぬけを  
子の遊ひ別をさへ又指ッ切り

國松  
龜甲  
一泉  
花魁  
四角

神田

五字題 新米

ちりんくと杖を鳴らし  
天宮を焼く周扇もはが  
葉の花をまゆと思ひ

夕キ  
田張  
龜樂

日ほ子帆

野狐が王子へお供が  
跡トめ出さあどひよあ  
日題 風呂へ這入

龜石  
洞江

根岸

お流しをん

玉住

折句歌 ヒニシ

一ツ春宵遊子笛場の都戸院で  
日粥みらら似し年とあき京のはま物  
晝顔のせつ書う人の志は時

谷泉  
春宮  
松花

姫百もや庭下結産しぬ露の雨  
引く様子交り甚名の製汁  
接る糸巻音も極る紫檀掉  
郷音くに固る子いぬち子結る乳  
日小袋方舟庭音も姉の仕是て  
臂だるしまた出来しる崎田留

日トカ

糸の倦と今新貝もお接ひ  
笛ノ竿窠て片手流し一樽  
歌く時子にかんくしる意

冠冠箱

糸せま目立湯殿坊も二軒との  
糸て取る糸接る音も流る子  
糸の流しと一棧橋をおけり  
糸の肘橋と一算へるお船蔵  
糸の灯籠の影へ身も思ふ嫁

日押

押うけ小棧音もせまの切りの幕

風呂 松月 旭我 其月 國松

一泉 如水 德利

神田 松友 百丈 田張 風呂 一窓

亀甲



押子母の花に出る子のお供  
押し賣りのたう菜つをい喰と妻  
押ス小桶揚り湯桶の仙次郎  
押せば鳴く湯り石の下  
押出し幅有る編子の座も  
押つた妻の豆いも隣り

折込題 輕言

廊を茶掛けく世帯も控ひ裾  
世のつと言ひ口も控ひの座も  
出代りの言訳つし控ひ

五字題 大う風

あつた錢を擦へ交けさせ  
金を出しちや天定を  
杖小福ぶきば一本う

日手柄

掛さる福の鹽をかひ  
むんとメツく鍵をほ  
苗の頭巾を奇悪小仕上

盃 洗  
二 刀  
五 束  
兔 山  
十 瓶  
夕 キ

一 窓  
東 瓶  
寛 坊

圓 入  
木 丸  
龜 乐

一 樹  
賀 重  
平 尾

神田

山谷

大風羽織の揚を

直せ

玉位

折句題 カッホ

そら子 宵夕涼の曇子  
影の様子 妻の腕よる追を待  
暇をもち子 小物よる宵を女親  
風何の所 積出の夏の堀江町  
故屋の子 小妻の心を画の母衣の裏  
加のちりて 次うぬ糸も糸ぬ終

其月  
風呂  
材居  
松老  
松花  
國松

洗ひ 鯉の 剣の 川舟  
朝夕の 夏を 小舟の 水鏡

冠題 時

東楓  
旭

時を ちりて 空の 葉も 小舟子  
時を 小唄を ついて 舟の 四ッ  
時を 冴えたる 毛立場の 耳刺して  
時早し 舟子 舟の 柳島  
時を 給を ぬく 竹の 葉根

一窓  
一山  
一泉  
風柳  
亀甲

日口

口 明々を看るも少くあつた子

山谷

新形

口 数もけうけ花をへきたるぬ

圓入

口 明々を看るも少くあつた子

谷泉

口 一手拭くも少くあつた子

向谷

志孝

口 果報の子を起す海は定むるま

竹馬

口 小僧の中へ子代も鳥金

木下

鉄峯

口 明々を看るも少くあつた子

賀重

抄込題 曲き

狭いともあつた子

德利

小きいも妻私小曲

舟

吸え

曲々物の蓋画の猿のまう車

寛坊

玉本存の曲々物き

和調

曲々る簪たを少くあつた子

盃洗

五字題 やいてる歌

胎養を二奉る川端へかり

亀樂

らんらんをいとお守りたまし

八鬼

指り子本を顔様ふたまし

月圓

読炮洲

妹人よも土産銭隠し 東我

日魚十水

引張る浴衣を裁って世の 十 靴

森付い多婦子時を知れ 二 刀

以三味線く調子を合せ 田 弦

片さづきも角突合さ 五 来

嗚呼拜ささや 玉 位

播磨路乃墓

折句起 サウフ

五月の湯浴盤茶のふく友 其 月

音を調ふ友來る者ふる 竹 馬

望み引きて交さるる子も裸哉 旭 國 松

裂く心むせうに岸も掃かぬ子 旭 常

酒ふと氣も浮く浪舟のぼら 春 窓

ささくくと扇の心を吹く南 梅 枝

棹ふ音とく流る流石舟へく 梅 枝

日 十 十

茶碗種竹く家も青碧 一 泉

枕片もよ木地見せり  
多あり支交り子と氣も掛り  
茶の酒形り毒拵吞妻  
共桑を乞也す樹をの流し井  
ちよひとおもちやの木を根も智恵

冠巻 内

内川を出水い調子も上り船  
内院で焼石へ打母のあ  
内心母夜母居酒をの情ひ妻  
内のメりふ釘を差以出入帳  
内くても下り上げ折りの産

外 外  
外はあ羅戸今ふある庫裏せり  
外はあ羅戸今ふある庫裏せり  
外はあ羅戸今ふある庫裏せり  
外はあ羅戸今ふある庫裏せり  
外はあ羅戸今ふある庫裏せり  
外はあ羅戸今ふある庫裏せり  
外はあ羅戸今ふある庫裏せり  
外はあ羅戸今ふある庫裏せり  
外はあ羅戸今ふある庫裏せり  
外はあ羅戸今ふある庫裏せり

彌 樂  
釘 丸  
寛 坊  
東 狐  
志 孝

盃 洗  
四 角  
田 張  
松 老  
岡 入

吟 多 梅  
材 居  
五 束  
誤 字  
德 利  
龜 甲

かひる子妻の事も俄々

桂林

折込題 田女

和国の酒造り巴女と眷小郎て

二刀

早乙女のおよし袖田小針目言

五葉

老女のむかし田の物言

松雨

五字題 敵

内院の障子の穴より吹込

八鬼

大根をとおろしてくろくろ

東我

お釜のあへ来ては焚き附

龜山

今日 富一

削る炭の七人とおを

龜樂

出する鏡の顔をかかし

夕キ

熱するやいな麦酒を汲出

十瓶

かき 座敷で猫の

玉住

鼻杖六す

折句題 ミツハニ

三ッ扇付く切の電も初乃益

松老

磨くお佛 器を洗箱母の顔

金星

大門通

見せて取る壺子たゞく為荷園  
身後ひ妻秋の日を針仕り  
糸貝小つらりととる著の先  
見晴し暑の平吉の西日陳  
身奇衆を妻ふみ若も法表  
又世の戸も妻の細目小早衣  
見遠るはり侍殿へ母も適  
五来  
四角  
吟多楼  
泰定  
夕キ  
賀重  
花魁

日コセ

今日日丑と纏居子むじ  
徳利

赤づり斗ねの存雲のたの  
小舟おゑきほつ四ツ岬  
赤ねる雪花紅糸の塩  
子持の汗の脊子雲の峯  
子も寝つとせしそんの冬  
池  
松子  
國松  
久馬  
亀甲  
夢中

冠冠 角

角袖を鬼灯の浅るかぎり糸  
角柄の娘若湯出の寺紅葉  
角の糸流出番の形も木孫店  
上カシ  
梅魚  
旭  
出来奴

角<sup>ニ</sup>がかり<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>赤飯<sup>ヲ</sup>を咽<sup>ク</sup>重<sup>ク</sup>  
向<sup>テ</sup>岡  
釘丸

日 並

並<sup>ニ</sup>へ<sup>ラ</sup>る<sup>ニ</sup>妻<sup>ノ</sup>小<sup>ノ</sup>天宮<sup>ノ</sup>の上<sup>ニ</sup>ぬ<sup>レ</sup>日  
盃洗

並<sup>ニ</sup>ひ<sup>し</sup>ひ<sup>の</sup>細<sup>工</sup>の<sup>目</sup>ぎ<sup>よ</sup>り  
風柳

並<sup>ニ</sup>ぶ<sup>る</sup>並<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>大<sup>小</sup>の<sup>文</sup>子  
片月

並<sup>ニ</sup>ぶ<sup>る</sup>結<sup>小</sup>の<sup>見</sup>る<sup>新</sup>子<sup>の</sup>名  
龜石

並<sup>ニ</sup>ぶ<sup>る</sup>春<sup>結</sup>の<sup>窮</sup>屋<sup>子</sup>居<sup>る</sup>眼  
谷泉

折<sup>込</sup>題<sup>片</sup>流

折<sup>込</sup>の<sup>床</sup>片<sup>の</sup>あ<sup>せ</sup>を<sup>春</sup>ふ<sup>る</sup>人<sup>の</sup>流<sup>し</sup>  
彌<sup>樂</sup>

北<sup>新</sup>堀<sup>を</sup>流<sup>り</sup>子<sup>の</sup>片<sup>の</sup>産<sup>し</sup>  
東<sup>菰</sup>

洗<sup>濯</sup>子<sup>の</sup>片<sup>の</sup>是<sup>の</sup>屍<sup>の</sup>流<sup>し</sup>下<sup>の</sup>結<sup>し</sup>  
一<sup>泉</sup>

可<sup>電</sup>イ<sup>生</sup>り<sup>片</sup>言<sup>て</sup>流<sup>り</sup>順<sup>に</sup>  
圓<sup>入</sup>

芭<sup>蕉</sup>片<sup>の</sup>葉<sup>の</sup>白<sup>の</sup>の<sup>流</sup>し<sup>流</sup>  
堂<sup>坊</sup>

う<sup>り</sup>の<sup>流</sup>り<sup>麻</sup>疹<sup>小</sup>母<sup>の</sup>片<sup>の</sup>苦<sup>号</sup>  
鉄<sup>峯</sup>

五<sup>字</sup>題<sup>南</sup>無<sup>三</sup>

あ<sup>け</sup>よ<sup>し</sup>と<sup>す</sup>る<sup>身</sup>柱<sup>を</sup>極<sup>ま</sup>れ  
一<sup>度</sup>

働<sup>ら</sup>く<sup>所</sup>を<sup>是</sup>那<sup>の</sup>目<sup>の</sup>ら<sup>是</sup>  
二<sup>刀</sup>

大<sup>仕</sup>掛<sup>の</sup>の<sup>樂</sup>が<sup>回</sup>り  
刃<sup>張</sup>



さんごの好むの穴も 喜楽

同 笑に

筆を出してあつて 十羅

山の奥にも 龜楽

二人のいはいと化る 龜山

利尚も鼻をゆるげで 八鬼

角は少くもる子に

腹の面白み 玉住

折句題 タナカ

適よと那のまて後乃たつ虫 松老

登て者を喜好むさのひ附け 國松

孫もあも骨いよ母の世話 桂舟

さる妻も別深の好むへ登りて 梅枝

退屈も毎ひも夏もまゝ温氣 モナ本 披煙

抱て出る形も流もな初る持 場 旭

たんのんも翔んあんとくなく 德利

草賣の並つづる花も初の声 松老

まゝつる別深の喜も度小歌を 浦楽

同七卅

左より持りぬぬの盃  
干しりすはる座へ船  
あり圓扇も時を吹く風  
平らけは士の船を温る場

風柳  
吟多橋  
春定  
喜市

冠題 天

毛人の船ふる座ふるきせるの舟  
天の川地は石を引く車  
了秤持も江戸あはるる魚  
天定續ち土地づゝ水も井の跡

盃洗  
二刀  
一泉  
鉄峯

同紙

帝冠子子敷を焼く身振る我後付  
紙と手早く五六枚はひ砂  
舟の細工雀も臺なる台の糊  
紙魚走しる様よ吹ちる枯銀杏  
帝駒も揺るる花の調子言  
紙の母もこも引さの上封じ  
帝取て筆をぬり書く忘る字

梅魚  
釘丸  
五葉  
亀甲  
松花  
夢中  
四角

紙て顔作く子無理ふ者んま  
所へ去るも固持のほくゆ

美園  
出妻奴

折込題 上川

解一ッ上戸もつまむ川むらり  
手も上りのる子の松川ふ筆拵  
薬種を連て川安一上三荷主

徳和  
夕キ  
五来

五字題 梅とん

笠袋うけに墨のまこころ  
清乃拭ひ乃氷が出ます

久馬  
角乐

同 一子

北島ヶたろろ切ろぞ  
いんぞ春んても思ろく  
回ろる菊を抱ろる

園入  
十瓶  
龜山

所表々交代

終る花扇

玉任

折白題 つかち

鯨帯片側町の葉を娘  
棉の核好えり妻の伸こ

一泉  
賢止

配るお長家まゝのおもたれさし子  
家ス老々有緒延て春之歌し  
菜菓と枝柿手成子のまゝ小附  
葛餅くカラ着るきつむきる妻  
楠部道なる然もついで余ん  
國りの刀+日費も奪り然  
棉の金隠し一箇の鏡甘し  
口小刷毛紙毛障子にて皴  
くもむ子也る山路不登る麻

か神田

桂林 谷泉 本坊 寛坊 徳利 田法 路白 其月 一玉

青山

標くるもそ存の書ゆ歌く空  
母孫をまはは舞粧苗も嬉し  
くはひ夕方と暮も綿もわらう  
癖のせしひ整人づら子伸るお  
口もまゝのこゝろお乃を敷か

青山

松雨 一白 盃洗 阿房 松を光

同 ハニヨ

たもろり岩あ紙もも小除る妻  
鳩をぬる枝あまき道と娘の帯  
まらら子のけしよずをぬ吸て

二刀 睡蝶 材石

青キ

撥をおうしと仕る片あせる姉

覽波

初鞋やまゝむ布川の粉網打

梅魚

早泊りあつて梅へ霞ふは

久馬

咄一残さるりあると碎さぬ身

賀重

たつこむ顔形ありよ本心後うけ森

旭

機も織仕舞梅子へ横目さ

龜石

勵む筆師の名も顔もよささぬ

一刀

とらひさゆゑあふもつらう横崎田

静志

母のむらゝと子ふははぬ敷の露

水雄

母と娘静新ぐり後綴て

夢中

同 スウモ

にる馬下終ううにる襦

國松

直くきり子産も持る大平

旭二

素少袖あつる肉一あつる襦

関濃

冠う冠一

一寸香も多で秋の妝の長つ尻

四角

一ト切ハ存みよすのう大根漬

五束

一ト筋とあ切るも妻の出が存あ

亀童

一 河の流糸合乃袖と袖 イカテ 竹字

一 二車よとけむ子の朝露古 長シシ 桃都

一 極々志ん枝けあふ子もよまき モウ木坂 一賀

一 下鏡子立吞急く柳来連 大横丁 釘丸

一 下雲り通して降るとまき声 大横丁 里氷

一 膳末座たよあうおお伴 大横丁 芍丸

同 安 大横丁 龜甲

安くハ踏めぬ芝居足の服も履 大横丁 花魁

安針町もメ免堂りの走らる 大横丁 粍考

安宅深く子まゝに知ぬ意の岡 大横丁 志考

安道子系を語る子も雪の肌 大横丁 馬骨

安宅と子無剛むけぬを魚も鰯 大横丁 夕キ

安全と書くも海海と走らる 大横丁 折込巻 海勢

上り下りの声やなまを毛刈海う 大横丁 吟多橋

多る海一トはお者よるい声 大横丁 徳利

出さ海一の舟へ声うけて来て 大横丁 五葉

海へ合ふり司古声の入りカラ 大横丁 盤急

多を子信し声信子母の礼  
舟馬

五字題 青

小刀細工も親指をいとし  
披煙  
司乃廻りを血一残し  
吾帝  
力強り死んぞう象岳さへきり  
ハ鬼  
穴子花のさきまう曉キ  
東我  
撥斗り大事り子勅免  
柏枝

同 面々の急い

腰帯の中りさるるい  
同 入  
同和下結をぬらぬ顔ぶ  
龜山  
あまともによし通りの四人  
龜樂

同 大出来

酒も盗んで来てい春やを  
彌乐  
身巾のせも下着て踊り  
鉄峯  
鯉節一の出しく喰りせ  
春宮  
むけ糸く身子う師道ふつあま  
松花  
あり喰う鯛を列きよらうけ  
一樹

三十一

とらふく子う邪う秋風お雪の降る 玉位

素よりこの旅も浮びる五日路 〃

一ト幕ハおき終るん世の子ちり 〃

折込留形流るるお子水の子にうる声 〃

面のおあたり子お舞ハ極りて斗り 〃

後篇追々出板

から衣之角終

トク



